

「西田先生の十八番のカラオケ曲はあるのでしょうか？」

平成 29 年 5 月 30 日

●三毛猫さんからの質問

少し前ですがあるインターネット討論番組で西田先生が軍歌たぐいの唄を歌われているのをみました！あまりの美声ぶりに驚いてしまったのですが（笑）カラオケは日本発祥の素晴らしい文化で健康面でも素晴らしい効果をもたらします！西田先生の十八番のカラオケ曲はあるのでしょうか？ぜひ教えてください！

●西田昌司の答え

その番組は、TOKYO MX が放送する西部先生の『西部ゼミナール』という番組の、2009 年 12 月 5 日放送分です。西部先生の他に、その当時のレギュラーメンバーである秋山祐徳太子さん、一水会代表の木村三浩さん、私の四人が、平塚新太郎さんのギターの伴奏に合わせて軍歌を唄うという企画でした。年末でしたので忘年会気分のノリでしたが、私はその時に『里の秋』を唄いました。『里の秋』はよく知られた綺麗な旋律の曲で、軍歌とは程遠く聴こえるかもしれませんが、現在ではあまり知られていない逸話のある曲なのです。

戦前に作られた『星月夜』という曲が、戦後に『里の秋』と改名されてNHK のラジオ番組『復員だより』で流されました。この番組は、番組の聴取者からの手紙をアナウンサーが朗読するのですが、その目的は、戦争によって連絡をとれなくなった人を探すためでした。手紙に行方不明の人物の特徴を記してそれをラジオで読み上げることで、その人物の消息を知る人や本人からの連絡を待つのですが、再会に辿り着くケースもかなりありました。

『星月夜』は1番から4番まであります。『里の秋』は、1番と2番は『星月夜』と同じ歌詞ですが、3番は新しく歌詞が作られています。今ではその3番の歌詞は忘れ去られて1番と2番のみが有名なのですが、その3番の歌詞は、父親の無事な復員を願う母子の思いを表現しています。3番の歌詞を知ること初めて『里の秋』の本当の意味がわかるのです。私は3番を唄うといつも泣けてしまいます。

さよならさよなら椰子^{やし}の島
お舟にゆられて帰られる
ああ父さんよ御無事でと
今夜も母さんと祈ります

ところで、私の十八番についてですが、私は何でも唄ってしまいますので何が十八番なのかよくわかりません。何が十八番なのか、考えておきます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>